



ユニセフ ウクライナ支援 3年報告書

戦争の恐怖の中にいる子どもたちへ
ユニセフが届ける緊急人道支援

ウクライナでの危機が続く中、子どもたちの命と心身の健康が脅かされています。

2022年2月24日に紛争が激化して以来、何百万人もの子どもたちが、長引く戦争による恐怖や不安、その影響に苦しんできました。死と破壊が、ウクライナの子どもたちの新たな日常となっています。これまで2,500人以上の子どもが死傷し、その数は2024年には前年より58%増加しました。東部の子どもたちはすでに11年もの間、戦争下で苦しみに耐えています。

戦争が激化して以来、5人に1人の子どもが家族や友人を失い、3人に1人が死傷者を目撃したと報告されています。また、子どもがいる世帯の3分の1で、子どもが精神的に苦痛を感じていると報告されています。思春期の子どもたちは特に、メンタルヘルスの問題に苦しんでいます。3歳未満の幼い子どもたちにいたっては、生まれてから戦争しか知りません。人生で最も大事な最初の数年間を、不安定な家庭環境、暴力の脅威、平穏な日常を奪われたことによって台なしにされてきました。

本格的な戦争が4年目に突入するなか、ウクライナでは3人に2人の子どもが貧困状態にあり、370万人の人々が依然として家を追われた状態にあります。これは東部での戦闘により、家族（主に女性や子ども）が避難を余儀なくされたためであり、前年の350万人から増加しています。現在も、290万人の子どもが人道支援を必要としています。

インフラの壊滅的な被害は、ウクライナ全土で確認されています¹。国内最大の小児病院を含む786の保健医療施設の破壊や損傷により、数千人もの子どもとその家族が、命を守る保健医療サービスを利用することができません。攻撃が続いているため、特に最前線地域では、子どもたちへの極めて重要な医療サービスや支援の提供が困難になっています。また、電力網や給水システムへの執拗な攻撃により、数百万人の人々が安定した電力や水道を利用することができず、気温がたびたび氷点下20度まで下がる冬でも、暖房が利用できない人もいます。170万人の子どもが安全な水を利用できず、250万人が適切な下水処理がない生活を送っており、水と衛生のシステムは崩壊寸前です。

この3年の間に、1,650校以上の学校が破壊され、または損傷し、危険な状況の継続により、数百万人の子どもが学校に通うことができなくなりました。最前線地域では、ほとんどの学校が閉鎖されたままで、70万人の子どもたちがオンラインで学習を継続すべく奮闘しています。遠隔学習は、不



ドネツク州ウラクリー村の破壊された学校。「電気はなく、電線は切れ、電柱は倒され、家は破壊され、学校はロケット弾にやられました」と子どもと避難したある母親が話しました（2024年11月）。

安定なインターネット接続環境、機器の不足、頻繁な停電などにより妨げられています。また、この遠隔での学習は、対面での学びや、友人や信頼できる教員と一緒に過ごす楽しさには、決して取って代わることはありません。

ウクライナは今や、世界で最もたくさんの地雷が埋められている国の一つです。地雷は子どもの最も基本的な権利を脅かし、心身ともに傷跡を残します。

ヨーロッパにおいて、第二次世界大戦以降最大のこの難民危機は、現在、避難の長期化という問題に直面しています。2025年1月15日までに、630万人以上のウクライナ難民がヨーロッパ各国で登録されています。その大半が女性と子どもで、住居や仕事などが定まらず、教育や保健医療を受けるのが難しくなっています。国境を越えて避難した子どもたちは、特に家族との離別、暴力、人身取引、搾取の危険にさらされています。また、避難先の国でも、幼稚園・保育園から中等学校の年齢にあたる子どもの約半数が、受け入れ国の教育制度に登録されていません。

¹ 戦争による経済的損失は甚大で、総額は4,990億米ドルを超えています。国防が国の予算の優先事項となっているため、社会サービスは慢性的に資金不足の状態にあります。

数字で見る戦争の影響



推定

370万人

ウクライナ国内で避難している人
(その24%が子ども、57%が女性)



2,523人

死傷した子ども¹



290万人

人道支援を必要とする子ども



32%

子どもが精神的苦痛を感じていると報告された家庭



786 カ所

一部または全部破壊された保健医療施設



1,650カ所

破壊された教育施設



460万人

教育が中断された子ども



170万人

安全な水を利用できない子ども



250万人

下水処理がない生活を送る子ども



最大

30%

不発弾が残っているウクライナの国土の割合²



推定

65%

貧困状態にある子ども



686万人

世界中で登録されたウクライナ難民
(その大半は子どもと女性)



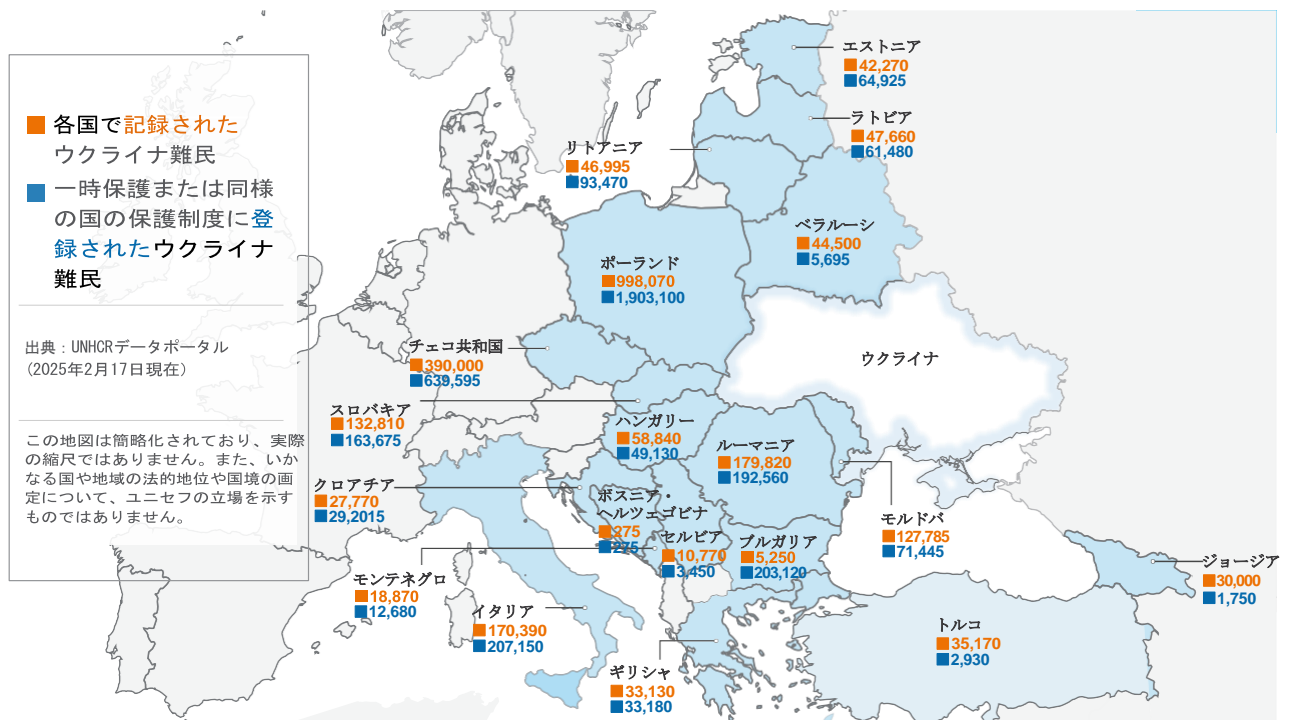
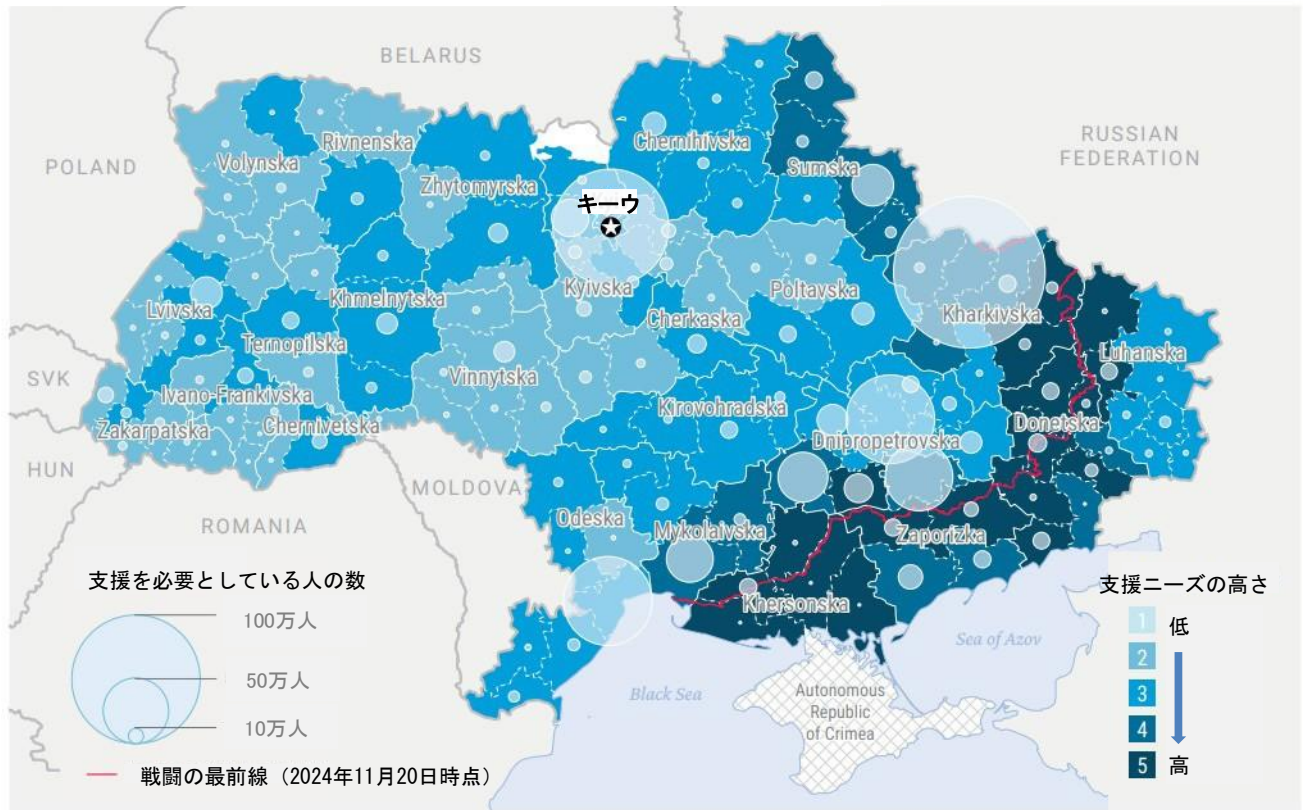
3年にわたる戦争の後、子どもたちに将来にわたって続く平和な日常を取りもどす必要があります。すべての子どもが自らの権利を実現できる平和と、安全に守られ、愛情をもって育まれ、戦争の恐怖から立ち直り、健やかに成長し、学ぶことができる平和が。”

—ユニセフ・ウクライナ事務所代表 ムニア・ママザデ

1 2024年 12月時点

2 ウクライナ政府の推定

地図でみる支援ニーズ（2025年）



》 ユニセフの支援活動

ウクライナ国内の子どもたち、国外に避難せざるを得なかった子どもたちは、継続的な命を守る支援とケアを必要としています。

ユニセフは子どもとその家族に寄り添い、その切迫したニーズに応え、復興を見据えて支援活動を続けています。

迅速な支援を

皆さまからの多大なご協力により、ユニセフは、ウクライナ全土および難民受け入れ国で、何百万人もの子どもとその家族に対し、持続的かつ不可欠な支援を迅速に行うことができます。戦闘が最も激しかった南東部に物資を配備し、緊急支援チームを派遣しました。アクセスが比較的容易な中部および西部では、地元当局と協力して、教育や子どもの保護支援、安全な水、その他生活必需品の供給を行いました。

ユニセフは、状況の変化に柔軟に応じつつ、常に迅速に支援を行ってきました。2023年までに、ユニセフはウクライナ政府、国際機関、100を超える現地のパートナー団体と協力し、継続的な緊急支援を実施しながら、早期の復興を見据えた取り組みの準備を進めました。

2024年には、最前線地域で緊急支援を継続しながら、早期の復興を見据えた取り組みを本格化しました。地域および国の長期的なレジリエンス（回復力）とサステナビリティ（持続可能性）の確保にむけたシステムの再構築への支援を開始しました。ウクライナの厳しい冬を乗り切るために、家庭への現金給付、防寒具や暖房器具の供給、学費補助などの支援を行いました。また、地域暖房システムの修理と復旧も支援しました。

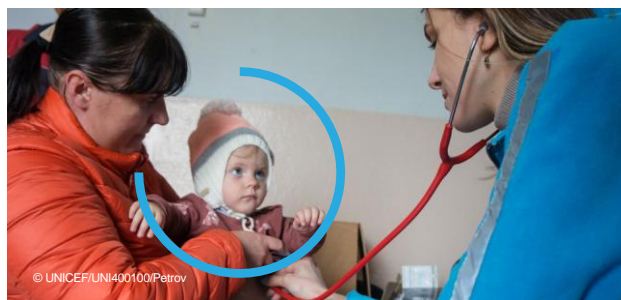
砲撃やミサイル攻撃が止むことなく続く最前線から30キロ圏内で、ユニセフは地元当局や機関と協力し、オンライン学習、メンタルヘルス支援、移動式保健サービス、生活必需品の供給を通じて、子どもたちやその家族を支援しました。2024年には、他の国際機関などとともに人道支援車両隊による45回の輸送に従事し、戦争、恐怖、孤立に苦しむ7万7,000人以上の人々に、安全な飲み水、衛生用品、その他の生活必需品を配布しました。

未来へむけて

復興可能な地域ではウクライナ政府が再建に動き出し、国をあげてのより長期的な開発に焦点を当てる中、ユニセフは、その過程の中心に子どもや若者がおかれ、ひいては子どもや若者への支援が効果的かつ効率的に行われるように取り組んでいます。ユニセフは、常に主導的な立場で子どもの発達分野での支援を行ってきました。子どもたち一人ひとりの生活に対し、主に3つの柱である「人生のより良いスタートをきれるように」、「より良い学びとスキルを」、「より良い養育を」との考え方に基づいた包括的な支援を行っています。

皆さまの継続的なご協力により、ユニセフは何百万人ものウクライナ難民と受け入れ国を支援してきました。当初より難民への支援を主導してきたのは、受け入れ国政府でした。ユニセフの支援も、国の制度や地元当局に対する緊急的なものから、長期的かつ持続可能な支援へと発展しています。長期にわたる避難生活を強いられている人々の継続するニーズに応じるため、受け入れ国政府による取り組みを補完しながら、国の制度や地域社会の構造転換を支援しています。

皆さまからのご協力なくして、ユニセフの活動はありえません。ご協力のおかげで、差し迫った課題に対処するための質の高い人道支援と長期的な開発支援を継続し、その成果として、すべての人々にとってより安全で安定した未来を築くことができます。



2023年4月、ヘルソン州にて、ユニセフの移動式保健チームの医師が、1歳のイェヴェニヤちゃんの肺の状態を確認しているところ。

ウクライナの子どもたちへのご支援、ありがとうございます。

ユニセフ・ウクライナ緊急募金へのご協力は、この切迫したニーズに対応するために不可欠です。

皆さまからのご協力により、ウクライナの子どもたちに長期的な復興の道をひらくことができます。

ウクライナ国内



500万人を超える子どもや女性が、ユニセフが支援する保健施設や移動式保健チームによるプライマリ・ヘルスケア¹を受けました。



145万人以上の子どもが、教育を受けました（就学前教育含む）。



約300万人の子ども、若者、養育者に対し、メンタルヘルスケアの支援を行いました。



95万8,000人以上の子どもを含む約580万人に、安全な飲み水を供給しました。

¹ プライマリ・ヘルスケア

ユニセフは、すべての子どもやその家族が基本的な保健医療サービスを利用できるよう支援しています。人々のニーズに沿い、地域のクリニックや保健センターなど身近な場所で検診や診察、治療を提供しています。

難民受け入れ国

ヨーロッパの難民受け入れ国で43万4,000人近くの子どもや女性が、ユニセフが支援する保健施設や移動式保健チームによるプライマリ・ヘルスケアを受けました。

126万人の子どもが、教育を受けました（就学前含む）。

子どものいる約4万7,500世帯に対し、現金給付の支援を提供しました。

ウクライナからの難民10万人以上に、安全な飲み水を供給しました。

昨年、学校で生徒たちが教員の役割を担う「生徒による自治週間」が実施され、ポリーナさんも教員役を体験し、将来の進路を決めるきっかけを掴むことができました。

ポリーナさんはクピャンスクでオンライン学習を続けていましたが、より良い教育を受けさせたいという母親の強い希望から、戦禍を逃れポルタヴァへ移住しました。「戦争が始まり、私の町では教育が中断されました」とポリーナさんは話します。「ここではオンラインと対面での授業が週ごとに交互に行われています。対面なら、分からないことを先生に直接質問して、一緒に解決してもらえます」。

ウクライナ全土で3万5,000人以上の子どもが、ユニセフの支援により学習を継続しています。



ユニセフは、子どものあらゆる発達段階において支援を主導しています



残忍な攻撃は、子どもを身体的、精神的に害するだけでなく、心身の総合的な発達に大きな打撃を与えます。”

—ユニセフ・ウクライナ事務所代表 ムニア・ママザデ

ユニセフは、子どもの発達のあらゆる段階での支援を主導的に行っています。現在は、以下の3つの柱に基づき課題に取り組んでおり、それはウクライナの47の自治体で実施中のプログラムにも反映されています。



人生でより良いスタートをきれるように

ウクライナが、将来を担う人材や豊かで平和な未来を取り戻すためには、幼児期への支援が極めて重要です。ユニセフは、子どもたちの健やかな成長を支えるため、未就学児に対し多岐にわたる分野から支援を行い、戦争が子どもたちに及ぼす悲惨な影響を軽減する政策とその実施を進めています。これにより、次世代の生活の質を向上させることを目指しています。



より良い学びとスキルを

ユニセフは、ウクライナの子どもや若者たちが声を上げ、自国の復興に貢献できるよう支援しています。より良い学びの場とスキルの提供を通じて、生徒たちが知識や技術を身につけ、そして復興にむけた意欲を持てるよう取り組んでいます。

この支援は特に重要です。なぜなら、ウクライナでは新型コロナウイルス感染症のパンデミックに続き、戦争が激化したことにより、何百万人もの子どもが5年間も教育の中断を余儀なくされているからです。

子どもや若者は、この困難な状況に対する解決策を見出すうえで重要な当事者であり、積極的な役割を果たせるように支援することが不可欠です。



より良い養育を

温かい家庭は、子どもの発達に最善の環境です。ユニセフは、すべての子どもが愛情と理解に満ちた家庭的な環境の中で育つことができるよう取り組んでいます。

ウクライナにおける「より良い養育を」プログラムの支援は、統合的な社会サービスや現金給付制度の整備、社会福祉の担い手の育成、家庭を基盤とした代替養育の推進、そして施設における養育の変革を目指しています。

ウクライナの復興は、包括的な児童福祉改革を実現する大きな機会です。ユニセフは、施設での養育から家庭や地域を基盤とした養育へと移行させるための支援を行っています。



写真提供：ご家族

伝統的なウクライナの刺繍が入った衣装を着るスヴィトラーナさんとアンドレイさん夫妻。ウクライナの東部ハルキウにある家庭的な児童養護施設で、12人の養子のうち10人とともに暮らしています。

より良い養育を：すべての子どもに家族を

戦争が続く中、12人の子どもを迎えた家族がいます。

2015年、スヴィトラーナさんとアンドレイさんは、ナスティアさんとヴァレリアさん姉妹を養子に迎えました。「当時、ナスティアは11歳でしたが、6歳児のように見えました。皆が小学1年生だと思い、5年生だとは誰も信じられませんでした。ヴァレリアは13歳でしたが、路上で夜を明かすなど、多くの苦労を経験してきていました」とスヴィトラーナさんは振り返ります。その後、5歳のミハイロちゃんと6歳のマクシムさんも引き取りました。

家族が増える中で、スヴィトラーナさんとアンドレイさんは正式に「家族型児童養護施設」を設立することを決意しました。この施設では、最大10人の子どもを受け入れ、政府から子ども一人ひとりに対して毎月の支援金や援助を受けることができます。そして、17歳のヴェロニカさん、16歳のスニジャンさん、14歳のローマンさん、11歳のエゴールさん、6歳のサーシャさんの5人がこの仲の良い家族の一員となりました。ほだなく16歳のアリサさんと14歳のユリアさんも加わりました。

スヴィトラーナさんとアンドレイさんが、14歳のアントンさんについてソーシャルワーカーから連絡を受けたのは、2024年のことでした。アントンさんは、戦争が本格化して以来、祖母と一緒に戦闘地域に住んでいました。砲撃の際、弾丸の破片で傷を負い、アントンさんの足には二つの傷跡が残りました。祖母は亡くなりましたが、アントンさんは今ではスヴィトラーナさんとアンドレイさんのもとで愛に満ちた家庭を見つけました。

子どもたちはそれぞれ、これまで歩んできた人生とトラウマを抱えており、「その傷は一生残るのです」とスヴィトラーナさんは話します。「私にとって一番の幸せは、子どもたちが元気に成長していく姿を見ることです。」

ユニセフは、すべての子どもに最良の養育が行き届くよう、尽力しています。例えば、ハルキウでは、12の地域コミュニティにおいて、政府や社会福祉団体と協力し、親元で育つことができない子どもたちが愛情あふれる家庭を見つけられるよう支援しています。また、子どもと関わる専門家に対し研修を実施し、里親家庭には、新しい環境に適応し、より良い子育て環境を確保するためのアドバイスを含めた、社会的・心理的・法的支援を提供しています。

支援の成果



保健と栄養

2022年以降、ウクライナでは、ユニセフの支援により500万人以上の子どもと女性が保健医療サービスを受けられるようになりました。これには、移動式保健チームによる家庭訪問や、保健センターでの緊急産科・助産・新生児ケアなどが含まれます。

ウクライナで戦争が激化した際、ユニセフは迅速に保健・栄養分野での支援を展開しました。現地の施設に対し必要不可欠な物資の調達や運営支援を行い、移動式保健チームの派遣を通じて子どもたちに支援を提供しました。ユニセフの支援は、当初の緊急対応から発展し、即時の救援ニーズへの対応と長期的な復興支援（例えば、国の保健システムの強化）を行う分散型保健サービスモデルの導入支援、パートナー団体との協働でのワクチン調達、乳幼児への健康的な食事の促進などを含むようになりました。

ユニセフがワクチンを供給したことで、在庫切れとなることなく、予防接種事業を継続することができています。冷蔵庫、保冷ボックス、ワクチン輸送容器、冷蔵車の調達と提供を行い、国内のコールドチェーン（低温物流システム）を強化しました。

「ユニバーサル・プログレッシブ・ホームビジティング」モデルは、ユニセフと保健省が協同する新しい試みです。看護師が幼い子どもがいる家庭を訪問し、それぞれに合わせた早期幼児ケアや予防接種に関する指導を行うほか、母乳育児やメンタルヘルスに関するサポートも提供します。2024年には、看護師が15の地域で約3万人に支援を行いました。ユニセフはアドボカシー（政策提言など）を通じて、家庭訪問をプライマリ・ヘルスケアシステムに組み込んだ2024年のウクライナ保健省の法令の導入を後押ししました。

また、現在ではユニセフの支援により、電力網への攻撃や停電が発生した場合でも保健医療施設が機能し続けられるよう765台の発電機が配備されました。

ウクライナ難民受け入れ国では、ユニセフの支援は即時かつ直接的なものから移行し、各国の保健システムの中に難民への支援を統合することに注力しています。また、ウクライナから避難した小児科医や医療従事者を各国の保健システムに組み入れるべく雇用を推進し、子育てアプリ「Bebbo」のようなデジタル・プラットフォームを開発し、難民・地域保健医療モデルを制度化するなど、研修の実施やリソースの提供において協力してきました。2022年以降のユニセフの支援として、2024年12月に4万人以上の子どもに予防接種を実施したことを含めて、43万4,000人のウクライナ難民の女性と子どもがプライマリ・ヘルスケアを利用しました。また、乳幼児の食事に関するカウンセリングが、3万人以上の子どもと養育者に提供されました。



2024年12月、キーウでは、ワクチン冷蔵輸送車が配備されていました。これらの車両は、低温を維持する特殊な冷却装置を備え、それぞれ最大70万回分のワクチンを保管することが可能です。また、特に戦争で荒廃した地域へ安全にワクチンを輸送することができます。

ユニセフはまた、ウクライナに700台の特殊な冷蔵庫を届けました。これらは電力がなくても最大2日半の間、ワクチンを適切な温度に保つことができ、インフラへの攻撃による停電が続く中で極めて重要な役割を果たしています。2024年には、ポリオ、小児および成人用ジフテリア・破傷風混合、はしか・おたふく風邪・風疹混合、ペントヒブ（PENTA-Hib）混合、新型コロナウイルス感染症のワクチンが合わせて約190万回分が輸送されました。2024年の予防接種推進キャンペーンは700万人以上に届き、89万1,000人近くが予防接種を受けました。

ユニセフがパートナー団体と協力し行った支援により、現在ウクライナの保健医療施設の95%が、世界およびヨーロッパの基準を満たすコールドチェーン設備を備えることができました。



子どもたちが命を守るためのワクチンを受けられ、定期的な予防接種をすべて計画通りに完了できるようにすることが、子どもの健康を守るうえで重要です。ワクチンのコールドチェーンを強化することは、私たちの人道支援における重要な取り組みであり、今日の幼い命、そして将来の命を守ることに繋がります。”

—ユニセフ・ウクライナ事務所代表
ムニア・ママザデ



教育

ウクライナでの戦争の激化は、それに先立つ新型コロナウイルス感染症のパンデミックと相まって、子どもたちに5年間にわたる深刻な教育の中断をもたらしました。インフラへの攻撃により、電力や暖房システムが遮断され、対面式およびオンライン学習の両方が妨げられています。空襲警報により授業は中断され、子どもたちは避難所への移動を余儀なくされています。また、子どもたちの多くはトラウマを抱え、学習に必要な心の余裕をもつことができません。

ウクライナにおいて、ユニセフは政府を支援し、教育制度の再建に取り組んでいます。幼稚園や学校の修復や復旧、オンラインと対面式の授業や補習学習の機会の提供、児童へのメンタルヘルス支援、安全なコミュニティスペースでの就学前教育の提供などを行っています。

2022年以降、ユニセフは、就学前教育を含む教育プログラムを通じて、ウクライナの145万人以上の子どもに教育の機会を提供してきました。約77万1,000人の子どもが学習教材やレクリエーション用品を受け取りました。約71万2,000人の子どもがメンタルヘルス支援、社会性と情動の学習、ライフスキル（生きていくうえで必要なスキル）に関する教育を受け、約10万人の教員がこれらの分野に関する研修を受けました。

2023年には、戦争の影響を受けた子どもたちのための就学前教育プログラムである「2 by 2」モデルを開始しました。このプログラムでは、安全なコミュニティスペースで、研修を受けた教員や心理士が週2回、2時間の授業を行い、子どもの小学校入学前に必要な準備を支援します。2024年には、1万5,500人以上の子どもがこのプログラムに参加し、1万人近くの就学前教育の教員が研修を受けました。セッションの70%以上に参加した子どもには、社会性・情動・認知能力の面で83%の向上が見られました。

ユニセフが開発した就学前教育プログラム「NUMO」は、これまでに40万8,000人以上の人々に利用されています。NUMOは、ウクライナ危機下にある3歳から6歳の子どもが対象のチャットボットを利用したオンライン教育ゲームアプリです。子どもたちはゲームで遊びながら、認知能力や創造的な表現力、読み書きや計算、社会情動的スキルを身につけることができます。また、インターネット接続がなくても使用できるため、避難を余儀なくされている家族にとっても有用です。

2024年には、ユニセフが現地のパートナー団体と運営する410の学習支援センターに、12万3,000人以上の子どもが通いました。さらに、100万人以上が「全ウクライナ・オンライン教育プラットフォーム」を利用するなど、戦争の影響を受けた子どもたちがハ

イブリッド形式（対面とオンラインの併用）や遠隔学習を受けられるようになりました。このプラットフォームでは、バーチャルな（ネット上の仮想の）教室、ビデオ授業、課題やテストなどを提供しています。

同じく2024年には、66の幼稚園と7つの学校の避難所を修復し、3万4,600人以上の子どもを支援しました。また、戦争の影響を受けた地域の計438の学校と幼稚園に対し避難所用の備品を供給し、15万1,200人の子どもたちが安全な環境で学ぶことができるようになりました。

難民の子どもや若者は、言語の問題などから受け入れ国での学校生活に適応できず、多くの困難に直面しています。難民受け入れ国では、戦争が激化して以来、126万人の子どもたちがユニセフの教育支援を受け、73万人近くが学習教材を受け取りました。ユニセフは、各国政府や現地のパートナー団体と協力しながら、誰もが排除されず支援を受けながら学び続けることができるインクルーシブな学習、難民の子どもたちの言語習得、教員の専門的スキルの向上、そして若者むけのスキル向上プログラムに重点的に取り組んでいます。

人生の最良のスタートを支える

3歳のイエホルちゃんは、戦闘が本格化する数週間前にウクライナのマリウポリで生まれました。イエホルちゃんは、戦争のない生活を知りません。

「深い悲しみを感じています」とイエホルちゃんの母親のエフゲニアさんは言います。エフゲニアさんは、3年前のあの恐ろしい日、生まれたばかりの息子を連れてマリウポリから逃れました。マリウポリの街はその後、破壊され、何千人もの命が失われました。「戦争は子どもたちから本来あるべき“子ども時代”を奪ってしまったと思います」と、エフゲニアさんは付け加えます。

生後の最初の数年間は、その後の人生のすべてに関わる基盤を形成する極めて重要な時期であることが、さまざまな研究から明らかになっています。つまり、この時期の経験が、行動や思考、コミュニケーションや対人関係の構築に影響を与え、将来の心身の健康や可能性を形成します。

ユニセフは、すべての子どもが人生で最良のスタートを切れるよう取り組んでいます。ウクライナの保健医療専門家は家庭訪問を行い、予防接種、栄養、乳幼児期の発達の指標に関する指導を行っています。3歳から6歳の子どもたちには、安全で包括的な就学前教育の場を設け、学校生活やその先の未来に必要な基本的なスキルを育む手助けをしています。また、発育の遅れや障がいのある子どもたちには、言語療法、カウンセリング、心理社会的支援などの特別なケアを提供し、成長を支えています。なぜなら、今日の子どもたちへの支援が、より強固で、復興する力を備えた未来のウクライナを築くからです。



子どもの保護

暴力や避難、不安定な情勢により、ウクライナでは、子どもの保護において危機的な状況が続いています。子どもの3分の1以上が戦争の直接的な影響を受けており、自宅や学校、病院への攻撃など、死と破壊の恐怖を目の当たりにしています。

経済や戦争による不安定な情勢のため、家族は強いストレスを抱えており、精神的な負担や暴力、さらには家族離別につながっています。3年にわたる戦争は、子どもたちにとって精神的負荷となり、高い発症率で不安症、うつ病、心的外傷後ストレス障害（PTSD）を引き起こしています。73%の子どもが「安全ではない」と感じ、54%が「悲しい」と感じていると報告されています。障がいのある子ども、国外から帰国した子ども、代替的養護を受けている子どもは、最も弱い立場におかれています。

2022年以降、**ウクライナ**では、ユニセフの支援により、340万人の子ども、若者、および養育者が、メンタルヘルスや社会心理面での支援を受けました。10万人以上の子どもがケースマネジメント（個別事例への対応）の対象となっています。当初は、ユニセフが支援する移動式保健チームが、一時滞在施設や人道支援拠点で子どもの保護支援を行っていました。現在では、ウクライナ政府の社会福祉サービスの提供能力を強化し、その支援範囲を拡大するとともに、物資の調達、ケースマネジメント、ジェンダーに基づく暴力への対策、専門的サービスへの紹介などの支援も継続して行っています。

2024年以降、ユニセフは「より良い養育を」プログラムを通じ、家族と離ればなれになった子どものための里親養育モデルを提供し、ウクライナの社会福祉サービスを支援してきました。また、子どもの権利を保護する活動により、施設から避難した1,240人の子どもを支援しました。さらに、ユニセフは、2024年9月に承認された政令第1026号の推進においても重要な役割を果たしました。国外から国内の代替的養護下に戻る子ども一人ひとりの個別評価をもとめました。そして、約400世帯の里親家庭を通じ、790人の子どもに安全で養育に適した環境を提供しました。

ユニセフは、ジェンダーに基づく暴力のリスクを軽減するために、保護施設や女性支援グループを後押しし、暴力の防止・対策を推進することで、約33万4,000人の子どもと30万人の女性を支援してきました。女性の健康と安全に関する情報を提供するウェブサイト「Laaha」は、1万6,000人の若い女性や女の子たちに利用されています。また、ロシア語、ルーマニア語、トルコ語にも翻訳され、モルドバやトルコでの利用も広がっています。



2024年12月、キーウ中央駅でテディベアを抱いて、くまのパディントン到着を待つ子ども。ユニセフは、ウクライナ戦争下の家族を支援し、子どもたちが安全で温かい家庭環境で成長できるよう「より良い養育を」プログラムに取り組んでいます。パディントンのウクライナ・ツアーは、この「より良い養育を」プログラムの一環で実現しました。

ウクライナの広大な土地には地雷や不発弾が残留しているため、ユニセフは調査結果やU-Report（ユニセフが開発した携帯のテキストメッセージのアプリ）の世論調査に基づき、最適な安全対策を伝える地雷教育を継続しています。爆発物に関する安全キャンペーンを行い、人気漫画や移動式チームを通じて、1,325万人に必要な情報を届けました。

ヨーロッパの**難民受け入れ国**では、パートナー団体と協力し、子どもとその家族が保護され、安全な空間や拠点で必要な支援を受けることができるようサポートしています。また、難民へのメンタルヘルス支援としてジェンダーに基づく暴力への対応や、同伴者のいない子どもや養育者と離ればなれになった子どもの特定と支援、そして難民が法的支援やケースマネジメントサービスを含む国の児童保護制度に組み入れられるよう支援しています。

過去3年間で、130万人以上の子どもと養育者がメンタルヘルスサービスを利用し、120万人以上の難民が安全な空間を利用し、支援を受けました。また、約100万人が性的搾取や性的虐待を通報するためのホットラインなどの安全な連絡手段を利用しました。当初、ウクライナ難民への支援のためにユニセフなどが設置した人道支援拠点「ブルー・ドット」は、今ではコミュニティセンターへと発展しました。

メンタルヘルスの支援により、 子どもたちとその家族の命を支える

3年にわたる戦争と不確実な状況の中で、ウクライナの子子どもたちはこれまでにないほどのストレスと精神的負荷を経験してきました。ユニセフは戦争激化当初から、あらゆる方法で支援を提供しています。

例えば2023年には、人道支援の拠点として設置した「スピルノ（ウクライナ語で「一緒に」）・チャイルド・スポット」を、安らぎや安全な場所を求める250万人が利用しました。2024年には、最前線や地方に派遣された移動式保健チーム、オンライン・プラットフォーム、臨時および長期的な地域センター、「子どもにやさしい空間」を通じて、76万人以上の人々、主に子どもたちが心のケアを受けました。「ポルーチ・プログラム」では、専門家を含めたチームで、平穏な暮らしを奪われた10代の子子どもたちやその親へのメンタルヘルスの支援を行いました。

また、ユニセフの支援により設けられた全国的な無料ホットラインは、2024年に3万8,000人以上の子子どもと2万人近くのおとなに利用されました。また、メンタルヘルスに対する認識を高めるデジタルキャンペーンは、100万人以上の視聴者に届き、ウクライナ全土で4万3,000人の教員と5万7,000人近くの子子どもたちが心の健康について考えるディスカッションに参加しました。

2024年の世界メンタルヘルスデーに、ユニセフは、「Momenta」というデジタル・プラットフォームを立ち上げました。このウェブサイトには、365のセルフケアの方法が紹介されており、すでに17万人がアクセスしています。また、200人の保健医療従事者と7,320人のその他分野の専門家に対し、メンタルヘルスの支援の強化にむけた研修をオンラインで行いました。



© UNICEF/UNI448069/Gromi



© UNICEF/UNI448064/Gromi

「いつも泣きたい気分で、外に出る気力もありませんでした。そして、あるとき意識を失いました」と、PTSD（心的外傷後ストレス障害）と診断されたネリャさんは話します。「気が付いたら、病院にいました」。その後、医師の助言を受け、心理カウンセラーと治療を始めました。今では妹と一緒に自転車に乗ったり、スポーツをしたり、ビーズ細工をすることで、絶え間ない恐怖に対処できるようになりました。戦争の激化以降、ユニセフの支援を通じ、人生と肯定的に向き合うための心理的ケアを受けた子どもとその養育者は、340万人以上にのぼります。



社会的保護¹

ユニセフの現金給付プログラムは、各国政府と協力し、危機下の家族に不可欠な支援を提供しています。過去3年間で、ユニセフはウクライナの社会政策省や地元当局と協働し、子どもがいる約31万世帯へ現金を給付しました。貧困率が上昇する中、190万人が現金給付を必要としていたため、2024年には2つの現金給付プログラムを実施しました。一つは、戦争の影響を受けた、または避難を強いられた人々を対象とし、2万3,314世帯（7万6,000人の子どもを含む）を支援しました。もう一つは、最前線地域にいる人々や代替的養護を受けている子を持つ人々を対象とし厳しい冬にむけた防寒対策として、6万9,700世帯以上を支援しました。

2022年以降、ユニセフは難民受け入れ国において、約4万7,500世帯を支援するとともに、7万6,000世帯以上に対する政府の社会保障給付に関し技術面での支援を行ってきました。2024年までに、ユニセフのアドボカシー（政策提言など）と専門的な支援を通じて、ウクライナ難民が各国の社会保護制度の対象として、国の給付を受けられるようにする政策の実現に貢献しました。

また、他の国際機関のパートナーと協力し、危機に対応できる社会保護のための技術支援や政策立案、予算編成、法制度の枠組みづくりなど、組織としてのレジリエンスの向上に取り組んでいます。

「この冬がどうなるか、見当もつきません」

2024年10月、ダリアさんとその娘たちは戦禍を逃れ、ドネツクから新しく移り住んだ家でカメラにむかってポーズを取っています。「私たちにとって難しい決断でした」とダリアさんは涙ながらに語ります。「ずっと決断を先延ばしにしていました。家には子どもたちが快適に暮らせる環境、居心地の良さ、必要なものがすべてそろっていました。でも、家の近くで戦闘が起きたとき、これは避難しなければならないと思ったのです。ほかに選択肢はありませんでした。絶え間なく砲撃が続き、終わる気配もなく、留まるのはとても恐ろしいことでした。二度と戻れないことはわかっています。何もかもが破壊されて、戻る家もないのでしょうか。」

ダリアさんの家族は、ユニセフから厳しい冬にむけた防寒対策のための現金給付支援を受け安堵しています。「石炭と500リットルの大きなタンクを買いました。ここには水がありませんが、このタンクがあれば少しでも水を確保できます。」



ユニセフの越冬支援プログラムの一環として、最も弱い立場におかれた家族が冬に備えるため、ウクライナのドネツクだけでも、7,500人以上の子どもを含む約5,150世帯に現金給付支援を行いました。これまでに同州では、合計で2万2,800世帯以上、3万2,300人以上の子どもに支援が届けられました。

¹ 社会的保護

ユニセフは、すべての子どもが公平に成長できるよう、各国の社会的保護制度の強化を支援しています。ウクライナでは、危機下にある家族の基本的な生活水準が保障されるよう、現金給付や医療・教育支援を通じて、特に子どもや弱い立場にある家族を支えています。



水と衛生

ウクライナでは、水と衛生のインフラが崩壊の危機に瀕しています。下水処理施設と水道システムの4分の1が破損しており、80%の水道施設が停電時の断水を防ぐための備えを持っていません。

エネルギーインフラへの攻撃により、ウクライナの発電能力の半分以上が破壊され、この冬は1日当たり4時間から18時間の停電が発生したものとみられます。地域暖房システムも損傷しており、2022年以降、子どもたちにとって最も過酷な冬となっています。

ユニセフは、避難民へのトラックでの給水、国内での浄水剤の供給、難民受け入れ国での衛生キットの配布など、戦争の危機下で水と衛生に関する多くの新たな取り組みを支援してきました。また、水道事業への支援や、破損した上下水道システムの復旧など、長期的な成果につながる支援を続けています。

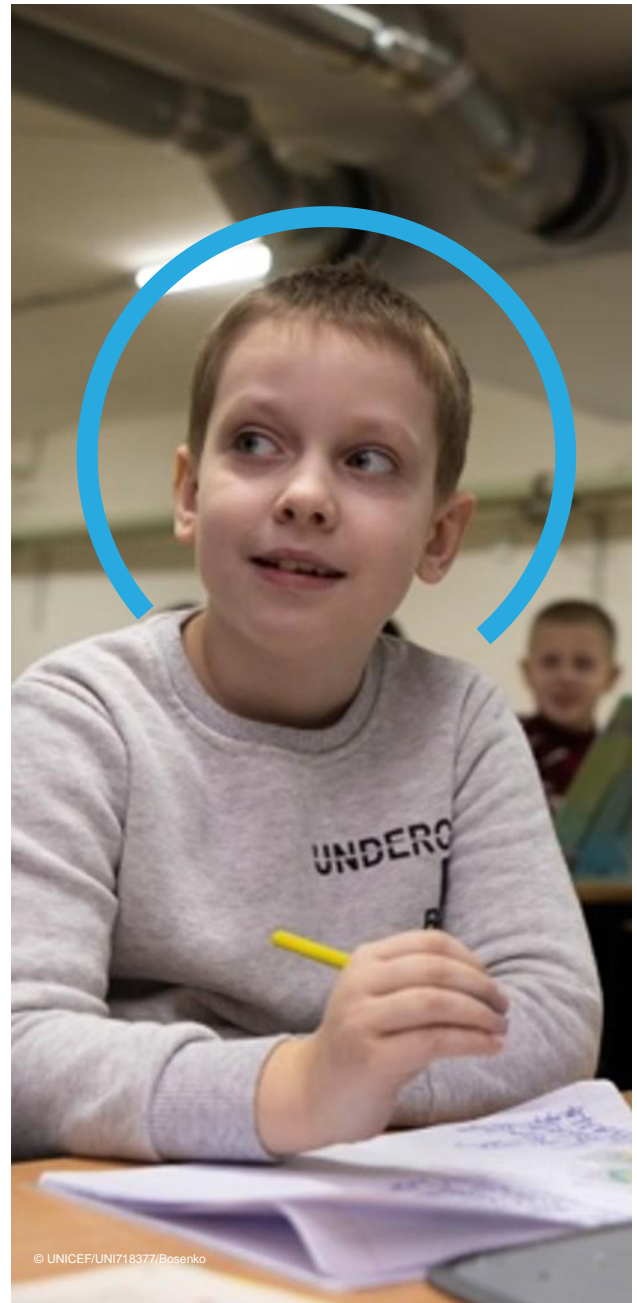
ウクライナでは、ユニセフの3年間にわたる支援により、95万8,000人以上の子どもを含む約580万人の人々が安全な飲み水を利用できるようになりました。戦争の影響を受けた230万人以上の人々に、水と衛生の支援（安全な飲み水、衛生キット、トラックによる給水）を提供しました。

また、114の水道事業者への支援（緊急の修理、不可欠な備品や浄水剤の供給）を行い、安全な飲み水の供給が大幅に改善されました。クリヴィー・リフ市では、水道システムの復旧により2024年には水の利用率が10%増加し、50万人以上が安全な飲み水を利用できるようになりました。

2024年には、ハルキウとスーミで現金給付プログラムを試験的に実施し、最前線地域に暮らす人々や新たに避難した住民を中心に、4万3,460人が地元の市場で衛生用品を購入できるよう支援しました。これは尊厳と自立を促す効果的な方法です。

地域暖房システムへの攻撃による被害に対処するため、ユニセフは地域の暖房対応チームを立ち上げ、迅速な調査と資源の配分を行いました。ハルキウでは、パートナー団体と協力してモジュール式ボイラーと17基の熱電供給装置を設置し、暖房ネットワークの強化をはかりました。これにより、10万人以上の子どもを含む61万6,000人を支援することができました。ボイラーや熱電供給装置を含む暖房機器は、14の自治体に提供されました。こうした取り組みにより、25万5,000人以上の子どもを含む、少なくとも150万人が、暖房を確実に利用できるようになりました。

難民受け入れ国において、ユニセフは戦争が激化して以来、ウクライナからの10万人を超える難民に安全な飲み水を届けてきました。4万人近くが十分な衛生設備を利用できるようになり、10万人以上が安全な水と衛生関連用品を受け取っています。また、複数の難民受け入れ国で支援を継続しています。例えば2024年には、ポーランドで1,913セットの衛生キットを配布し、モルドバの国境検問所や難民宿泊施設で約1万人の難民に、ルーマニアのブカレスト難民支援拠点では5,000人以上の難民に対し、水と衛生の支援を行いました。



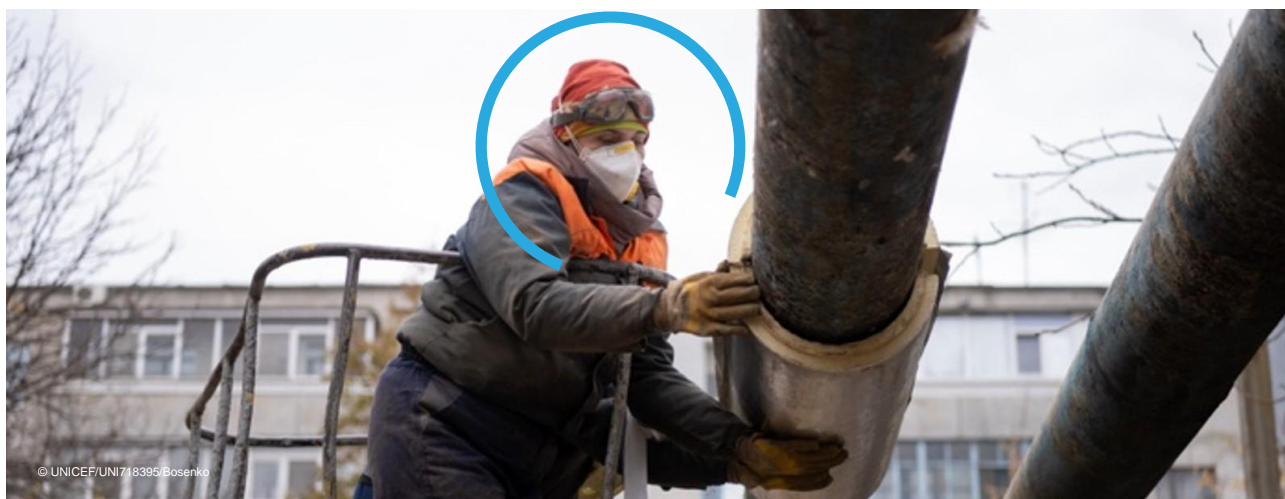
子どもたちが学習を続けられるように、教室に暖房を

2024年11月、ドニプロペトロウスク州のパヴロフロードで、作業員が暖房用パイプの断熱材を従来のものからポリウレタンに交換しました。これにより、熱損失が25%削減され、市全体でエネルギー効率が向上しました。同市は戦闘を逃れる人々の中継拠点となっており、10万人の地元住民が約2万人の避難者を受け入れています。そのうち約4,000人が子どもであり、地元の学校や幼稚園に通っています。しかし、ミサイル攻撃によりインフラが頻繁に被害を受けています。

ユニセフは、この地域で暖房や水道を復旧する大規模なプロジェクトを実施しています。砲撃で損傷した設備の修理や、老朽化した設備の交換に取

り組んでいるほか、最新技術の導入も進めています。また、水の浄化システムの設置や、熱・電力の生産を増やすためグリーンエネルギー設備の提供も行っています。

この支援により、市内にいる1万1,000人以上の学齢期の子どもと、2,500人以上の未就学児が、寒い冬の間の暖房を確保できるようになりました。地元の学校では、4年生の子どもたちが地下の教室で授業を受けています。この地下避難所には暖房と照明が完備されており、ミサイル攻撃が続く中でも対面授業が続けられています。



© UNICEF/UNI718395/Bosenko



© UNICEF/UNI664933/Ratushniak

ジトミル州リューパールでは、水道管の劣化、頻繁に発生するシステムの不具合、沈殿物の堆積により水が飲めず、親たちは困っていました。ユニセフが供給した1,500メートルのプラスチックパイプにより、水漏れや水道管の破裂はなくなりました。

ユニセフは、支援を必要とする家族に、必要不可欠な物資を届けています。

2022年以来、ユニセフの支援はウクライナの子どもたちの生命線となっています。人道支援物資が、命を支えているのです。医療キット、手術用機器、助産キット、応急処置キット、衛生用品、防寒用の毛布や衣服、発電機、太陽光ランプ、「箱の中の学校」、学習・遊び・レクリエーションのための備品、浄水剤などはその一部にすぎませんが、多くの人々に安らぎをもたらしました。

2024年だけで、ウクライナの子どもたちとその家族は、7,900万米ドル相当の重要な支援物資を受け取りました。4,670万米ドル相当の物資はユニセフの倉庫から発送され、5,520万米ドル相当の物資は現地の業者から直接支援を実施するパートナー団体に供給されました。現在、790万米ドル相当の物資を在庫として保有しており、かつ継続的な支援のため880万米ドル相当のパイプラインも確保しています。

若者の成長と社会参加

ウクライナでは、若者の4分の1以上がメンタルヘルスの問題を抱えています。多くの若者は、ストレスへの耐性を高める方法を身につけたいと考えています。ユニセフは、さまざまなアプローチを通して若者の成長を支援しており、例えば市民としての社会参加や仕事に就くためのスキル向上を支援しています。

ウクライナの若者たちは積極的に地域社会に関与しており、51%がボランティア活動に、31%が市民活動に参加しているという報告があります。この傾向を活かし、ユニセフはウクライナ政府と連携し、国の復興と将来の発展において若者が重要な役割を果たせるよう支援しています。

2024年には、ユニセフの支援を受け、約25万1,000人の若者がスキル向上プログラムに参加しました。戦争の最前線地域の自治体で新たに設立された若者支援センターでは、4万700人以上の若者がスキル向上の支援、メンタルヘルスの支援を受け、ピア・ラーニング（仲間同士での学びあい）に参加しました。また、地元当局や若者の代表者たちは、センターを自分たちで運営していくための研修を受けました。

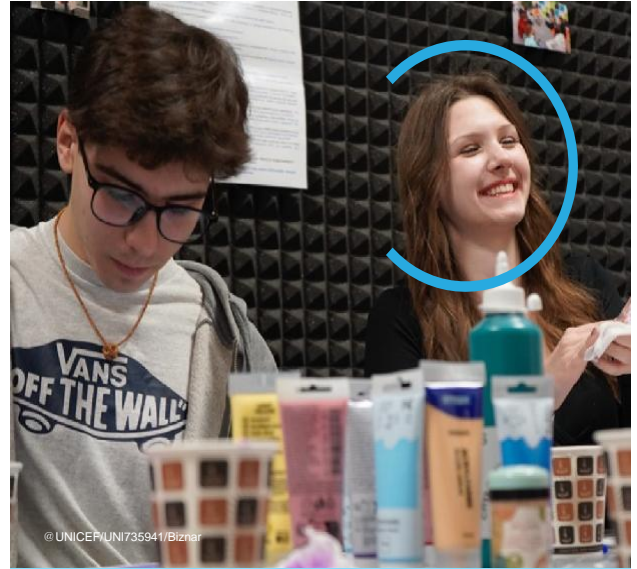
ザポリッジャでは、約9万5,000人の若者が防寒用の物資の配布などの人道支援ボランティア活動に参加しました。「UPSHIFT」プログラムでは、375の若者チームによるメンタルヘルスや環境保護といった問題への取り組みを支援し、その結果8万6,000人以上の人々に必要な支援を届けることができました。さらに、U-Reportは約3万9,000人の学生の学習を支援しました。また、約2万8,500人の若者がメンタルヘルスの支援をオンラインで受けました。

難民受け入れ国では、ユニセフは引き続き若者の参加、教育、心理社会的支援に取り組み、「PATHWAYS」プログラムなどを通じて教育や職業訓練、雇用の機会を提供しています。

ウクライナ難民の若者が、スロバキアで進路を見つける

スロバキアでは、ウクライナ難民の子どもたちが対面の授業に参加することが難しく、退学率が高くなっています。5カ月前にウクライナのハルキウからスロバキアに逃れた15歳のマーシャさんは、現在ウクライナの学校の授業をオンラインで受けていますが、スロバキアの教育制度には登録されていません。

しかし、来年の新学期からは状況が変わります。スロバキアにいる5歳から16歳のウクライナ難民の子どもたちが義務教育の対象となることが決まり、スロバキアの学校制度に登録されるのが義務付けられるからです。



ハリコフからスロバキアに到着したばかりの15歳のマーシャさんにとって、アートセラピーは単なるクリエイティブな表現活動にとどまらず、没頭することで辛い日々を忘れ、仲間と繋がる手段になっています。アートセラピーは、「PATHWAYS」プログラムの一環として、市民社会団体によって提供されている活動のひとつです。

マーシャさんは今、ウクライナと難民受け入れ国の両方で実施されているユニセフの「PATHWAYS」プログラムを通じて支援を受けています。

ユニセフは、ウクライナ難民の若者が教育を受け、能力を身につけ、良い仕事に就けるよう、2024年にスロバキアで「PATHWAYS」プログラムを開始しました。このプログラムでは、教育、子どもや若者の保護、メンタルヘルスといった「学ぶことから稼ぐことまで」の各分野の支援を統合し、個別のケースマネジメントやキャリアガイダンスの提供など、学習や就労のための支援を行っています。「ここに来た当初は、言葉もわかりませんでした」とマーシャさんは話します。「でも今はスロバキア語を勉強していて、いつか大学に通うのが夢です。」

この取り組みでは、ウクライナの若者のための語学学習、メンタルヘルス支援、キャリアカウンセリング、および地域のさまざまなイベントが1カ所で提供されています。特に、親や養育者と離れて暮らす多くのウクライナの若者たちにとって、こうした支援は単なるクリエイティブな表現の場ではなく、日々の困難や孤独から逃れる安全な居場所となっています。

これからの道のり

2025年になっても、ウクライナにおける戦争は依然として予測のつかない状況が続いています。何百万人もの子どもが、危険で不確実な3年間を過ごし、4年目に入りました。ユニセフは、不可欠な人道支援を継続するとともに、復興を見据えた支援にも重点的に取り組んでいきます。ウクライナの子どもたちの未来を守り、豊かにするため、政府やパートナー団体と協力しながら、国内のさまざまな制度を強化していきます。

例えば、子どもたちへの教育支援として、質の高いさまざまなオンライン教育ツールの提供、教育専門家の派遣、学校でのメンタルヘルス支援に取り組めます。また、水と衛生分野の支援では、生活に不可欠なインフラの修復、代替電力源の供給、水の浄化や衛生用品の配布を続けます。そして多目的現金給付支援により、最も弱い立場におかれた家族やすべてを失った人々の命と尊厳を支え、日常における戦争の影響から人々を守っていきます。

「より良い養育を」プログラムでは、家族を失った子どもたちが安全で温かい環境で養育を受けるための支援を続けます。また、ジェンダーに基づく暴力の脅威への対処や、メンタルヘルスの支援も継続します。すべての子どもたちがどこにいても、メンタルヘルスや基本的な社会保障の仕組みを利用できるように支援を続けてまいります。

ベラルーシ、ブルガリア、チェコ、モルドバ、ポーランド、ルーマニア、スロバキアなどのウクライナ難民受け入れ国において、ユニセフは引き続き、難民への支援と国の難民への対応に長期的に協力していきます。

これまで以上にいま、ウクライナへのご支援が必要です。
継続的なご協力をお願い申し上げます。

皆さまからの継続的なご協力は、ウクライナ国内および近隣の欧州諸国でウクライナの子どもたちとその家族の健康と安全を守るために非常に重要です。

2025年、ユニセフは支援を継続するため、4億9,560万米ドルを必要としています。そのうち4億米ドルはウクライナ国内での支援に、9,560万米ドルは難民となった子どもとその家族の支援に活用することを計画しています。

ユニセフは引き続き、ウクライナにおいて将来にわたり続く平和を強く求めます。

平和は子どもたちが戦争の影響から回復し、健康と学ぶ機会を取り戻し、持って生まれた能力を最大限に発揮できるようにするために必要です。

ウクライナ国内支援と難民支援への必要資金（2025）¹

支援分野	必要資金額 (米ドル)
保健・栄養	43,727,232
子どもの保護	121,945,773
教育	123,325,019
水と衛生	136,943,176
社会的保護	62,597,000
複数分野にわたる支援	7,071,496
合計 ²	495,609,698

¹ 2025年ユニセフ・ウクライナ人道支援計画（HAC）からの資金調達額

² 各分野の資金額は、四捨五入して記載しています。そのため、その合計と表に記載の合計額には差が生じています。

付録 子どもたちとその家族への支援の主な成果

過去3年間、個人や企業、団体などの民間部門からの柔軟で迅速、かつ多大なるご協力により、ウクライナと、ヨーロッパの19カ国に広がる難民受け入れ国において、何百万人もの子どもとその家族に支援を届けることができました。

皆さまからの継続的なご協力は、ウクライナの子どもたちやその家族が生活を立て直し、希望ある未来にむかうための支えとなっています。最も困難な時期を支えてくださっているすべての方々に、心より御礼申し上げます。

資金調達と支援の成果（2022–2024）

ウクライナ国内（2024）							
支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健と栄養	72,783,360	15,652,036	25,754,839	15,571,340	920,000	113万8,901人の子どもと女性が、ユニセフが支援する施設や移動式保健チームの プライマリ・ヘルスケア を利用した。	124%
子どもの保護	101,313,504	48,559,964	40,295,997	58,298,915	888,312	75万7,807人の子ども、若者、および養育者が、地域の メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	85%
教育	94,570,464	28,208,236	43,873,604	43,119,945	625,000	48万1,484人の子どもが、 教育 を受けた（就学前教育含む）。	111%
水と衛生	159,142,870	68,003,633	45,323,974	80,503,968	5,660,000	578万5,754人が、 安全な飲み水 や 生活用水 として十分な量と質の水を利用した。	102%
社会的保護	68,066,438	45,885,255	41,429,313	57,218,689	39,985	6万9,695世帯が 現金給付支援 を受けた。	174%

ウクライナ国内（2023）

支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健と栄養	104,000,000	23,906,619	29,134,589	40,250,000	5,000,000	503万3,280人の子どもと女性が、ユニセフが支援する施設や移動式保健チームの プライマリ・ヘルスケア を利用した。	101%
子どもの保護	111,010,000	66,217,289	20,092,284	30,880,000	2,600,000	256万1,399人の子ども、若者、および養育者が、地域の メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	98.5%
教育	100,000,000	51,413,683	33,931,587	64,130,000	1,200,000	132万8,602人の子どもが 教育 を受けた（就学前教育含む）。	111%
水と衛生	145,000,000	82,938,194	34,152,841	50,430,000	5,700,000	542万1,369人が、 安全な飲み水 や 生活用水 として十分な量と質の水を利用した。	95%
社会的保護	369,230,400	82,666,939	51,247,615	51,360,000	200,000	5万9,858世帯が 現金給付支援 を受けた。	30%

ウクライナ国内（2022）

支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健と栄養	100,400,000	94,070,006	520,831	50,300,000	4,500,000	492万6,077人の子どもと女性が、ユニセフが支援する施設や移動式保健チームの プライマリ・ヘルスケア を利用した。	109%
子どもの保護	65,300,000	85,135,049	483,122	28,370,000	2,000,000	297万8,598人の子ども、若者、および養育者が、地域の メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	149%
教育	60,000,000	68,708,323	219,080	30,660,000	1,400,000	145万1,665人の子どもが 教育 を受けた（就学前教育含む）。	104%
水と衛生	106,500,000	138,440,639	491,565	47,450,000	4,500,000	464万9,974人が、 安全な飲み水 や 生活用水 として十分な量と質の水を利用した。	103%
社会的保護	655,149,430	471,838,932	1,057	312,430,000	265,000	30万9,100世帯が 現金給付支援 を受けた。	117%

難民受け入れ国（2024）

支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健と栄養	7,004,361	4,455,344	3,002,934	5,579,821	50,590	4万3,764人の子どもと女性が、ユニセフが支援した仕組みを通じて プライマリ・ヘルスケア を利用した。	86.5%
子どもの保護	50,633,423	32,360,312	24,680,552	43,378,489	534,848	36万806人の子ども、若者、および養育者が、 メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	101.2%
教育	44,376,137	22,228,115	13,874,293	30,656,593	444,130	48万5,228人の子どもが、ユニセフが教育制度を支援したことで 教育 の機会を得た（就学前教育含む）。	109.3%
水と衛生	2,537,574	1,396,500	1,014,602	1,978,812	20,000	1万4,919人が、 安全な飲み水や生活用水として 十分な量と質の水を利用した。	74.6%
社会的保護	44,376,137	3,512,476	11,002,371	9,025,963	31,800	1万7,173世帯が、ユニセフの技術的支援を受けた各国政府の既存の仕組みを通じて 現金給付支援 を受けた。	54%

難民受け入れ国（2023）

支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健	16,191,889	10,282,425	9,277,800	17,770,000	274,390	34万6,968人の子どもと女性が、ユニセフが支援した仕組みを通じた プライマリ・ヘルスケア を利用した。	126.5%
子どもの保護	51,278,689	44,209,901	38,508,539	60,730,000	1,171,460	131万6,114人の子ども、若者、および養育者が、 メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	112%
教育	74,890,431	31,826,823	28,993,752	72,350,000	673,580	125万9,838人の子どもが、ユニセフが教育制度を支援したことで 教育 の機会を得た（就学前教育含む）。	187%
水と衛生	5,539,917	1,233,052	641,683	1,310,000	40,000	2万4,928人が、 安全な飲み水や生活用水 として十分な量と質の水を利用した。	62%
社会的保護	74,609,389	20,139,897	15,458,986	45,300,000	158,750	7万6,131世帯が、ユニセフの技術的支援を受けた各国政府の既存の仕組みを通じて 現金給付支援 を受けた。	48%

難民受け入れ国（2022）

支援分野	必要資金 (米ドル)	調達資金 (米ドル)	繰越資金 (米ドル)	活用資金 (米ドル)	目標 支援人数	主な支援成果	目標 達成率
保健と栄養	29,041,949	26,533,122	0	13,560,000	429,800	43万3,701人の子どもと女性が、ユニセフが支援した仕組みを通じた プライマリ・ヘルスケア を利用した。	101%
子どもの保護	108,642,871	138,683,028	0	69,990,000	1,210,190	84万6,033人の子ども、若者、および養育者が、 メンタルヘルスおよび心理社会的支援 を利用した。	70%
教育	135,260,555	141,999,187	0	89,440,000	626,050	58万8,778人の子どもが、ユニセフが教育制度を支援したことで 教育 の機会を得た（就学前教育含む）。	94%
水と衛生	18,337,783	6,805,483	0	200,000	216,000	10万350人が、 安全な飲み水や生活用水 として十分な量と質の水を利用した。	46%
社会的保護	75,695,843	61,391,716	0	21,410,000	64,150	4万7,494世帯が、ユニセフの技術的支援を受けた各国政府の既存の仕組みを通じて 現金給付支援 を受けた。	74%



ユニセフ ウクライナ支援 3 年報告書

発行日: 2025 年 3 月

著: ユニセフ(国連児童基金)

発行: 公益財団法人 日本ユニセフ協会
(ユニセフ日本委員会)

〒108-8607

東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

電話: 03-5789-2011(代表)

FAX: 03-5789-2033

www.unicef.or.jp

本書は、ユニセフが作成した「Three years of full-scale war in Ukraine」を
日本ユニセフ協会が翻訳・編集したものです。
転載をご希望の方は、日本ユニセフ協会までお問い合わせください。